

橋本イズムの継承

株式会社橋本店

代表取締役社長 佐々木 宏明



ご挨拶

株式会社橋本店の佐々木でございます。日頃より弊社事業に格別のご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

この度は、東北活性化研究センター様の誌面への寄稿機会をいただき誠にありがとうございます。弊社の事業内容や取り組みについて紹介させていただきます。

弊社は仙台市青葉区定禅寺通りに本社を構える総合建設業です。宮城県内を中心に、東北各地で構造物や建物の建設に携わってまいりました。主な実績は、気仙沼大島大橋（JFE・橋本店・東日本コンクリートJV）、せんだいメディアテーク（熊谷組・竹中工務店・安藤建設・橋本店JV）、東京の駐日韓国大使館です。



気仙沼大島大橋
施工：JFE・橋本店・東日本コンクリートJV

弊社の歴史と社会貢献活動

弊社は、明治11年に創業者 橋本忠次郎が

仙台定禅寺通りに「橋本組」を設立し、今年4月で創業144年を迎えました。企業理念の一つに社会貢献を掲げておりますが、これは創業当時から受け継がれている精神です。1913年に橋本忠次郎は岐阜駅移転改装工事を請け負いました。当初は財政難で資金が集まらず駅を建てることができずにいました。そこで橋本忠次郎が、仙台で建設資金集めに奔走し、その資金によって駅舎を完成させることができました。それが町の方々にも評価され、現在もその町は

「橋本町」という名前で残っています（岐阜県岐阜市橋本町）。忠次郎には、人の為に尽くせば必ずまわりまわって自分のところに返ってくる、という「報徳」の精神がありました。仙台駅東口にある日蓮宗本山孝勝寺に移築した旧橋本邸の仏間も「報徳堂」という名前で残されています。創立記念日にあたる4月20日



仏間



洋館



母屋等

には毎年、孝勝寺にて物故歴代社長及び、その昔難工事など社業遂行に寄与しながら亡くなられた方々に対する追悼法要を行い、全役職員で改めて無事故・無災害に最大限の努力を行うことをお誓いしています。なお、その他の旧橋本邸建造物は、洋館を利府町の「県民の森」へ、母屋と離れ座敷及び灯籠、銘木は仙台市太白区の「野草園」へ寄贈しております。

また、平成28年から「橋本店 SAKURA プロジェクト」を行っております。これは、140周年記念プロジェクトとして、これまでお世話になった工事関係各所の創生を願い、さらに震災で被災した地域に、癒しの空間を提供することで地域に恩返しをして参りたいと考え、弊社が施工した公共建築物ならびに公共土木工事をはじめ、地域全体に、桜の木を寄贈し、植樹しております。6月末時点で、1002本の植樹を行いました。その他、櫻岡大神宮への大鳥居寄贈、本社と同じ立町の紫稻荷大明神の建て替えなどを行ってまいりました。



平成28年11月3日、気仙沼大島大橋架橋やトンネル工事などでお世話になった気仙沼市大島にて桜の植樹会を開催し、プロジェクトをスタートさせました

これからの建設業

建設業では、2024年4月から時間外労働の上限規制が適用されます。弊社でも、生産性向上に向けてデジタル技術の活用を積極的に進めております。計画、調査、設計段階から3次元モデルを導入し、その後の施工、維持管理の各

段階においても3次元モデルに連携・発展させ、併せて事業全体にわたる関係者間で情報を共有することにより、一連の建設生産システムの効率化・高度化を図ることを目的とした「BIM / CIM」においては、これまでの「4D：時間軸」から、さらにコスト軸を加えた「5D：原価管理」の全現場での活用を進めております。



BIM/CIM 使用例

また、建設業は社会資本の整備を担う重要な産業であるとともに、優良な環境の創出・保全を行うことができる産業です。そこで弊社でも、2020年に「SDGs宣言」を発表し、持続可能な社会の現実に向けて取り組んでおります。2021年には、地球環境の保全、気候変動・脱炭素化への取り組みを加速させるための「環境活動計画2021」を策定し、設計業務、工事、管理業務の合計15項目において2030年までに達成すべき目標値を定め、具体的な取り組みを進めております。

地域の建設業は、インフラの整備、維持管理等を支えるとともに、災害時には最前線で安全安心の確保を担う「地域の安心安全の守り手」という大切な役割があります。今後も、ものづくりやまちづくりを通して地域に寄り添う会社であり続けたいと思います。